

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩正子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵

事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

会員必見！軍事産業巨大化に警鐘鳴らす総評製作の幻のドキュメンタリー
「汝 多くの戦友たち」上映会 お話；有原誠治（映画監督）
12月5日（土）13：30～15：30 練馬区職員研修所 資料代300円

冒頭がエンゲルスの演説（再現シーン）という如何にも古色蒼然とした作品ですが、これは戦争と経済の関係を解き明かした珍しい作品です。戦争法の強行採決に続いて早速、（東京新聞が10月1日夕刊、同2日朝刊で続けてトップで報じたように）防衛装備庁が発足しました。これは日本がいよいよ本格的に軍事産業育成に乗り出すという明確なシグナルです。「死の商人」が堂々と跋扈する時代を迎えたわけです。

文化の会を長い間支えてきた故古賀義弘さんが雑誌「経済」に寄せた“遺稿”ともいべき論考は日本の軍事産業の分析でした。しかも今回のDVD製作にあたったのは有原誠治監督。これだけ会員のかかわりが強い作品ですから、会員必見のドキュメンタリーといわなければなりません。会員の皆さま、今回の上映会に参加いただいたうえで、この作品のDVD（5千円）をお買い上げいただき、是非地域でも上映会にお取り組みください。

意気高く戦争法廃案をかかげ、新年を祝おう！テーマは「沖縄・辺野古」 発足45周年記念「新年会」 1月9日（土）後2時～練馬区職員研修所

第1部（2時～3時）：トーク（柏木美恵子）、沖縄舞踊・三線（植竹・豊岡）

第2部（3時～ ）：懇親会—参加者のひとことスピーチ 会費2000円

（準備の都合がありますので、返信ハガキ（切手貼付を）は年内に）

2016年は文化の会発足45周年の年です。本格的な記念イベントは現在検討中ですが、新年会も会員外の人にも参加を呼びかけ、45周年と銘打って実施することにしました。テーマも「沖縄」とし、第1部（2時～3時）の前半は「語やびら沖縄（もあい練馬）」の柏木美恵子さんから「今、沖縄は（仮）」のトークと、後半は植竹しげ子さんの踊りと豊岡マッ

シーさんの三線を組んでいます。第2部は例年通り歓談・ひとことスピーチとしました。昨年の新年会では「料理も文化」というお叱りをいただきましたので、今回は沖縄料理をメインに献立を検討しています。戦争法廃案へ向けてお互いの繋がりを確認できればと思います。

12月上旬に戦争と平和、教育、メディアめぐる企画が集中（チラシ参照）

- ① 絵本「戦争のつくり方」から学ぶ～今、私たちにできること～池田香代子（作家）
12月4日（金）後6時半～8時45分 ココネリ大ホール 参加費500円
- ② 「戦前は」はいかにして始まるか？資料が語る、戦争に拍手したメディアと国民
12月7日（月）後6時半～ 日比谷コンベンション大ホール 参加費 無料
- ③ 「イラク チグリスに浮かぶ平和」上映会&トーク 綿井健陽監督・大山勇一弁護士
2月9日（水）後6時半～ 池袋：生活産業プラザ8階多目的ホール 参加500円

3つの署名を広げ、事務局あてにご返送下さい

- ① 戦争法の廃止を求める統一署名（呼びかけ：総がかり行動実行委員会）
- ② ゆきとどいた教育をすすめるための請願（呼びかけ：都民の会）
- ③ 練馬区議会議長あてー沖縄との対話で解決を求める意見書の提出を（柏木美恵子）
練馬・文化の会 事務局長：森田彦一 〒176-0006 練馬区旭丘1-7-7 Tel.3951-4276

民族舞踊研究所（植竹しげ子）の「沖縄からの島だより」（11月21日）に140人 古典舞踊（「四っ竹」など）と若手二人によるメロディアスな三線演奏



「鳩間節」を踊る植竹しげ子さん

大泉のゆめりあホールで11月21日（土）の夜行われた、植竹しげ子さんが主宰する民族舞踊研究所による「沖縄からの島だより」

には140人が参加、優雅な宮廷舞踊、軽快な野良着による踊り、それに若手の男女二人による三線漫談などで会場は大いに盛り上がりました。本土でもポピュラーな「安里ゆんた」を演奏したイチャリバーズという若手コンビは女性のシーサー玉城と男性の豊岡マッシー。東京に居住し、最近の沖縄音楽のはやりにのって全国展開しているといひます。

永田浩三著「奄美の奇跡」の出版をお祝いする会（11月17日）に40人が参加

11月17日、武蔵大の目の前のギャラリー古藤で永田浩三教授の「奄美の奇跡」出版をお祝いする会には満杯の40名が出席して行われました。冒頭30分は永田教授が「執筆余話」と題してトーク、本が奄美出身の高齢の女性から膨大な資料を持ち込まれて執筆を乞われたことから、奄美の日本復帰への戦いが詩歌などの文学作品の誕生ともあいまった大変文化豊かなものだったこと、ハンガーストライキや99%の島民の参加を得た署名運動が文字通り「オール奄美」で行われたことなどが語られました。参加者からは、まず練馬区の田畑革新区政を支えた滝田豊一氏のお祝いの言葉でスタート。滝田氏は田畑氏と同様、本土へ密航して復帰運動に尽力、田畑区政では環境部長、厚生部長などを歴任した人で、92歳の高齢にもかかわらず、矍鑠とした言葉でお祝いの言を語られました。次いでNHK出

身の戸田、フジテレビ出身の小玉の両武蔵大名誉教授、それにNHK出身の「放送



を語る会」の小滝一志さんからNHKの現状批判を含めてお祝いの言葉が語られました。その合間には植竹さん紹介の三線愛好会の浜岡会長による奄美民謡の「あやはぶら」の演奏もあり、10人を超える人の祝辞などが続き、アッというまにお開きに。最後に参加者全員集合写真をギャラリー古藤さんに撮影していただきました。

Facebook（永田浩三さん）より流用 「沖縄 うりずんの雨」（ユンカーマン監督）の武蔵大上映会に130人

きょうの『沖縄 うりずんの雨』の上映会。武蔵大学1002シアター教室は、130人の方たちで埋まった。学生は少なかったが、武蔵を受験したいという沖縄の若者も来て、質問までしてくれた。ありがたい。

ユンカーマン監督の言葉は、ひとつひとつ

胸に響いた。

箇条書きにしてみた。

1. この夏、明らかに辺野古の新基地建設問題への関心は広がった。国会前で、辺野古について声をあげる。かつてないほど声は広がっている。



2. 今起きていることは、明らかな沖縄差別。そのことを認識するひとが増えた。だとすれば、差別は必ず

是正される。なぜなら差別は絶対に許されな

いからだ。

3. 事態を長いスパンでも見よう。沖縄はペリー来航以来、アメリカのターゲットになってきた。

4. 沖縄経験のある米軍兵士は350万人。そのひとたちを無視することはできない。

5. ノーム・チョムスキーに尋ねたことがある。あなたはなぜ絶望しないのかと。現実には絶望した時、わたしはいつも映画に向かう。

新入会員自己紹介

「テレビみつがしわ」が会とのお付き合いのはじまり

戸田桂太（武蔵大学名誉教授）

「練馬・文化の会」とのお付き合いのはじまりは、私が武蔵大学の学生達と映像作品をつくるゼミを担当していた2007年頃でした。文化の会から、学生と共同でドキュメンタリー番組（タイトルは「テレビみつがしわ」）をつくり、J-COMのテレビで放送するという提案を頂きました。若い学生たちが文化の会の方々、いわば人生の大先輩と一緒に取材活動をするという機会はたいへん貴重です。一も二もなく、この提案にのって、すぐに共同制作がはじまりました。

最初の『マンモス団地は陸軍飛行場だった』（2008年8月放送）という15分の番組は戦争中

の陸軍成増飛行場の跡地に建設された光が丘団地の歴史を辿り、練馬の戦争を記録した作品でした。その後、この共同制作の活動は様々な形で発展し、小岩昌子さんの、若い世代に戦争中の歴史を語り伝える活動につながった作品『私は風船爆弾を作っていた』をはじめ、地方の時代映像祭で表彰された作品など多くの番組が放送されています。私が大学を退職した後も、文化の会と武蔵大学のコラボレーションは永田浩三教授の指導の下、新しい展開をしながら継続しているのはご承知の通りです。

新入会員自己紹介

日常の暮らしができることこそ平和な社会

桐生 明夫（平和美術会ほか）

私は退職後も元の同僚たちと一緒に、テレビ番組の「おもしろさ」をどう判断するか等、番組の「質」を考える研究や調査を続けています。このことで会員各位にご協力を依頼する機会があるかと思しますので、その節はどうかよろしくお願いいたします。

私は平和美術展や日本アンデパンダン展に長く出品し続け、ほかにもグループ展に出品しています。

創作では、これまで子どもたち、若者たち、働く人々、音楽家など、今を力一杯生き、明日に向かって輝いている人々に共感して、油彩、水彩、木版画などで描いてきました。それは、これらの人々の姿が普遍的で美しいからです。そして貫いてきたのは“人間讃歌”です。それを「人間讃歌 桐生明夫画集」と

して出版しました。出版後も、人々を描き続けています。

私が所属する美術家平和会議は、二度と戦争をさせない決意で、1952年から平和美術展を開催し、2016年で64回展を迎えます。自らの作品を出品すると同時に、私は広島、長崎で被爆し亡くなった方の肖像画を描いて、展示後遺族に贈呈する活動に参加しています。遺族の皆さんから「核兵器廃絶をと活動してきた志を受け継いでいきます」と感謝されています。

そのためにも、戦争への道を突き進む安倍ウルトラ右翼内閣を退陣させ、立憲主義、民主主義を取り戻し。表現の自由を守っていかねばならないと思います。日常の暮らしができることこそ、平和な社会だと思います。

それができなくなるかの岐路に立っています。
 ※ 東京民報（週刊）という新聞の4面に12月から5月までの6か月間、私の人物画を人間讃歌というタイトルで連載します

ので、ご覧下さい。

（美術家平和会議副事務局長、全国文化団体連絡会議幹事）

新入会員自己紹介

ノーベル賞受賞前の益川敏英さんのインタビュー

柳沢健二（月刊誌「経済」編集部）

練馬文化の会に参加させていただくことになりました。よろしくお願いします。区内では、公的保育を守る練馬連絡会、石神井台九条の会で活動しています。ふだんは、月刊誌『経済』（新日本出版社）の編集の仕事をしています。『経済』は、表紙に「時代の課題に挑む科学的社会主義の経済誌」と銘打って、社会科学を中心に、歴史学、哲学、文化、自然科学に至るまで、平和と社会進歩に貢献する論文やエッセイ、インタビューを掲載しています。

これまで取材を通じて出会った研究者の一人に益川敏英さんがいます。益川さんは、2006年4月号で、「学問の府としての大学の役割」と出して、学問論、大学論を語っていただきました。益川さんは、和歌山の柿を例に、美味しい柿の実に育てるには土壌をしっかり育て、毎年刈り取ってはいけないこと、

大学も同様に、10年、20年後に花開く教育をすること、そのための基礎教育の大切さを熱く語っていました。そのときのインタビュー論文は、「東京新聞」の論壇時評でも紹介されました。

それから2年後、益川さんはノーベル賞（物理学）を受賞しました。

いま安倍政権の下で、世界的競争に勝つ大学づくり、すぐに役立つ理工系重点の大学政策がすすめられています。しかし、長い目でみて人類に貢献する研究の発展が本来の学問のはず。最近の日本人のノーベル賞の研究を見ても、基礎を踏まえた研究の積み重ねの成果です。近頃の大学「再編」のニュースを、益川さんが語っていたことを思い出しながら見ている昨今です。そんな話題も文化の会で交流できればと思います。

新入会員自己紹介 20年以上にわたり「いじめのない学校づくり」に取り組む

伊藤洋子（教育専任相談員）

私は、20年以上にわたって、「いじめのない学校づくり」を「子ども自身による、いじめ防止活動」として、取り組んでいます。2011年大津市中二男子生徒のいじめ自殺事件を発端に、2013年「いじめ防止対策推進法」が施行され、国会、政府、都道府県、市町村の「全ての教育機関」と、「全国の公立学校」が「いじめ防止基本方針」を策定、いじめ防止に取り組んでいます。

しかし、残念ながら、11月1日名古屋市中一男子生徒の「いじめ自殺」を防げませんでした、なぜでしょうか？

それは、「おとなには、いじめは見えにくい」ためです。

文科省のいじめ資料を見ると明らかです。

「深刻ないじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子にも起こる」と異口同音にうたっていますが、いじめ件数（昨年）は、実態とかけ離れたものです。

① 小学校の44%、中学校の32%は、「いじめがない」

② いじめ件数は、全国=40人（1学級）当たり0.5件 東京都0.3件

「子ども自身による、いじめ防止活動」なしには、前進は、ありません。

子ども達は、与えられた条件に従順で、意欲的でないように見受けられます。

そこで、手始めは、子どもたちが自分のよさに気づき、自信をもてる、「よいところ発見授業」を手掛けています。